

令和8年度第1回 学校運営協議会 議事録

期日 令和8年5月27日(水)

場所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校 図書休養室

1 開会・校長挨拶

2 学校運営協議会委員 自己紹介

3 学校運営委員会について

学校運営委員会の位置づけと目的

- ・**組織の一員としての参画**：静岡県の特別支援学校では実施されている制度。委員は「学校評議員」のような外部の役職ではなく、学校組織の一員(仲間)として任命される。
- ・**主な目的**：本年度の「学校経営計画」の承認を得ること、および学校経営や子どもたち、教職員について各視点から忌憚のないアドバイスをもらい、一緒に学校と地域を盛り上げていくこと。

4 学校経営計画の説明

学校経営の基本方針と評価方法

- ・**グランドデザイン**：「良さが輝き、未来をひらく」を掲げ、子どもたちが未来に向かって自分の良さを輝かせることを目指す。
- ・**学校評価**：具体的な目標に対して「A(達成できた)」「B(概ね達成できた)」の割合(成果目標)をパーセンテージで設定し、教職員や保護者による評価を行う。

学校経営を支える「4つの柱」と重点ポイント

- ・学校経営計画の具現化に向け、以下の4つの柱を軸に取り組む。
 - 安心安全**：ヒヤリハットの迅速な報告・共有による早期対策の徹底。
 - 専門性**：専門知識を日々の授業や具体的な指導支援に活かす。(実践知)
 - 連携**：地域資源を活かしたキャリア教育と、保護者・関係機関との協働。
 - チーム学校**：働き方改革とタイムマネジメントにより、教育の質と教員のやりがい向上。

5 校内参観

6 感想

学校運営協議会委員より

- ・老朽化遊具の放置は子どもにとって危険であるため、安全に遊べる環境を整えてほしい。
- ・避難猶予が極めて短い下田市への津波に備え、迅速に行動できるよう、避難開始を判断する責任者と確認事項を明確にマニュアル化してほしい。
- ・渋滞や二次被害のリスクを抑えるため、無理な校外避難は避け、校舎への垂直避難や近隣の空き地の活用など、ハザードマップの水流予測に基づいた現実的な避難計画に見直してみてもどうか。
- ・交流校の実情に合わせながらも、生徒が生産した作物の販売を通じて地域交流と活動資金獲得を図る取り組みを検討してみてもどうか。
- ・大学生によるそば作りの取り組みに本校生徒も参画し、タケノコ掘りやチョコレート作りなど、五感を使った地域交流のアイデアを積極的に活用してみてもどうか。
- ・中学校が実施しているユニバーサルデザイン（UD）避難訓練に興味があるため、本校としてもぜひ参加を検討してみてもどうか。

学校の回答および今後の展望

- ・老朽化遊具の対応については、保護者の要望を受け、遊具を共有する下田小学校とも確認し合いながら、丁寧に対応していく。
- ・移動時の渋滞や高齢者の二次被害リスクを想定し、校舎への垂直避難や近隣の空き地の活用、ハザードマップを踏まえた現実的な避難計画を考えていく。
- ・大学や地域産業との連携を継続的な学びに発展させるとともに、交流籍校の実情に合わせながら、今後も本校や定時制との連携を通じてセンター的機能を発揮し、いただいたアイデアをもとに具体的に行動していく。
- ・前年度に下田中学校の実践的なユニバーサルデザイン（UD）避難訓練を身近で見学する機会があったことを踏まえ、将来的には本校生徒も一緒に訓練に参加できる体制の構築を目指していく。
- ・今後の共同訓練の実現に向けて、まずは当該訓練の主催者、実施目的、および参加規模などの詳細な情報を整理し、把握に努めていく。
- ・地域のリアルな課題とインクルーシブの視点を踏まえ、校長を中心に学校と県、関係機関との話し合いやアイデアの共有を大切にし、実現の可能性を検討していく。

7 本日の結びと学校経営計画の承認

- ・**学校経営計画の承認**：本日の協議会にて、令和8年度の「学校経営計画」について委員の皆様より無事に承認を得た。